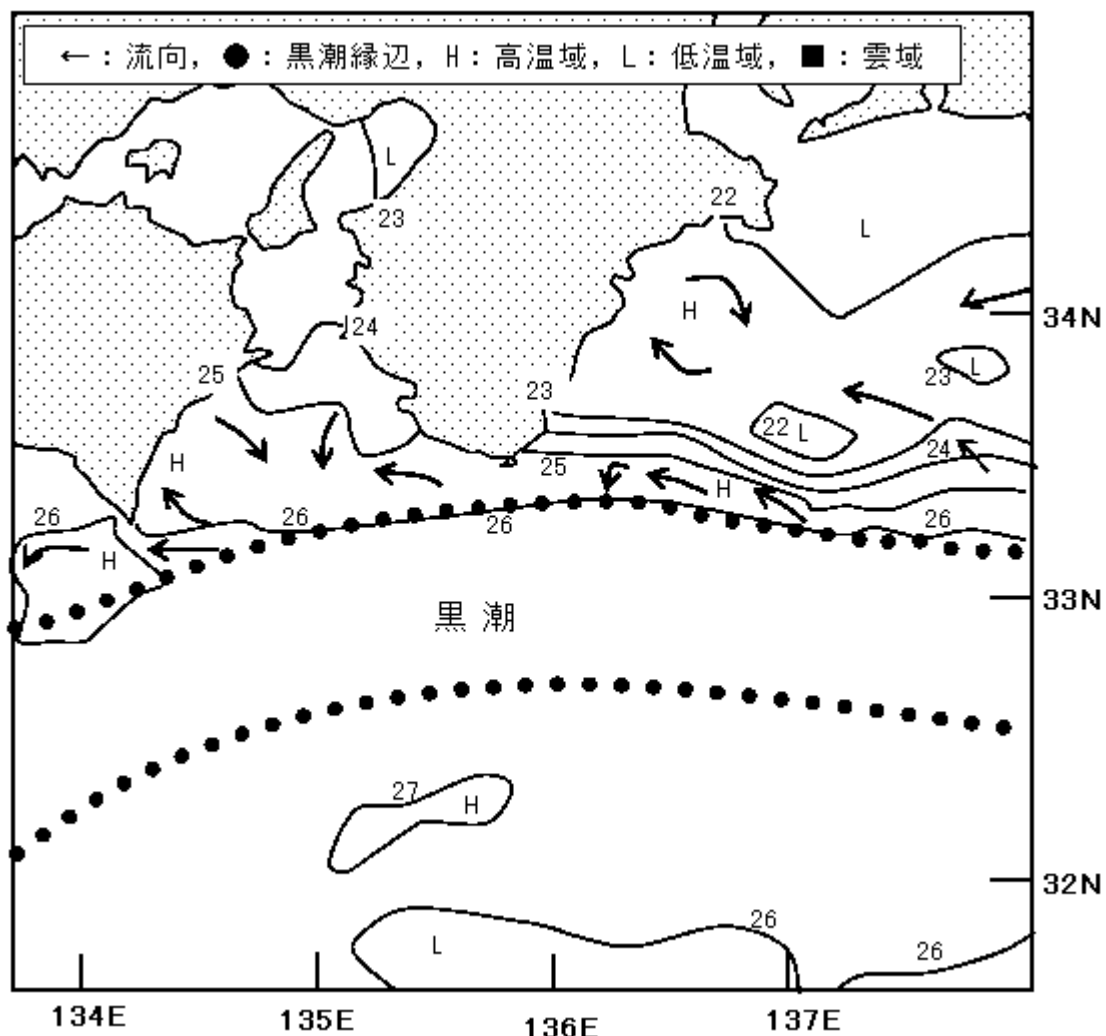


[前週の情報](#) ← → [翌週の情報](#)

10月は「全国漁船安全操業推進月間」です。海中転落事故から命を守るために

- ◇ ライフジャケットは常時着用し、防水の携帯電話も身につけましょう。
- ◇ できる限り集団操業を心がけましょう。
- ◇ 自動停止装置、船上に戻るハシゴなどの設置を進めましょう。

1. 海況の経過



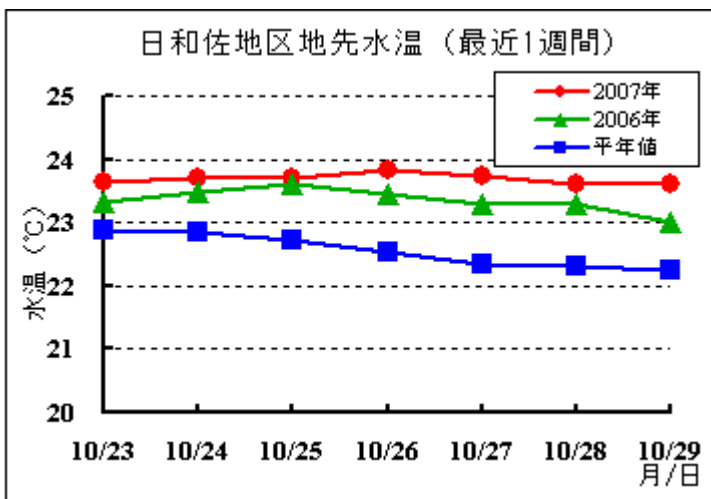
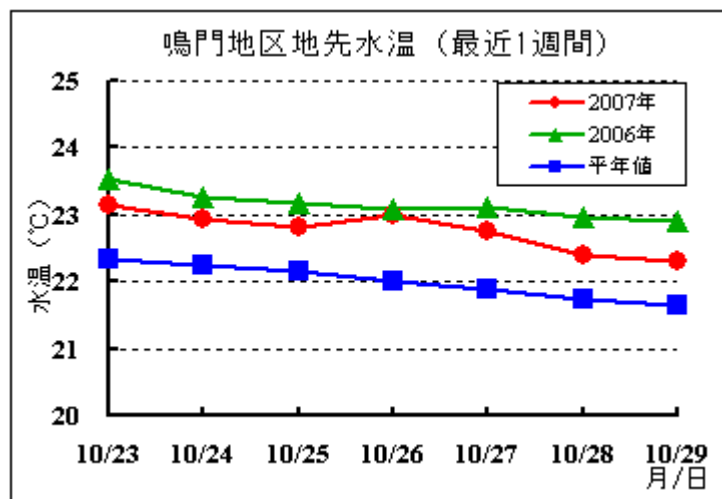
上に和歌山県の人工衛星海況速報(H19.10.28~29)を示した。

黒潮は室戸岬、潮岬沖とも接岸している。黒潮本流の表面水温は26℃台である。

表面水温は播磨灘は23℃台、紀伊水道内部は23~24℃台、外域は23~25℃台である。紀伊水道沖合から、25℃台の紀伊水道外域へ流入しており、一部が海部沿岸に到達している。

地先水温

最近1週間の地先水温は、鳴門地区は「やや高め」の22.2~23.1℃、日和佐地区も「やや高め」の23.6℃~23.8℃、牟岐地区は「平年並み」~「高め」の23.2~24.5℃で推移した。



2. 漁況の経過

台風 20 号による波浪の影響のため、出漁日数が少なく、まとまった水揚げがみられなかった。

小型定置網:海部沿岸で、マアジが 1.9トン(1日1隻あたり88kg)、タチウオが 1.0トン(同 50kg)、マルソウダが 0.4トン(同 16kg)、かます類が 0.4トン(同 12kg)、アオリイカが 0.3トン(同 8kg)、ヒラソウダが 0.2トン(同 13kg)水揚げされた。

建網:海部沿岸で、カワハギが 0.3トン(同 37kg)水揚げされた。

釣り:海部沿岸で、小主体にタチウオが 2.6トン(同 65kg)、特大主体にカツオが 1.2トン(同 586kg)、アオリイカが 0.4トン(同 9kg)、紀伊水道で大、中主体にサワラが 0.6トン(同 27kg)が水揚げされた。

パッチ網:紀伊水道で、シラスが 4.1トン(同 125kg)水揚げされた。

漁業種類別漁獲量集計表(抜粋) 10月22日～10月28日 県下8協からの聞き取り

漁業種類	漁獲海域	魚種	延べ出漁隻数	漁獲量(kg)	1日1隻あたり漁獲量(kg)	銘柄・その他
小型定置網	海部沿岸	マアジ	22	1,931	88	
		タチウオ	19	953	50	
		マルソウダ	24	384	16	
		かます類	30	364	12	
		アオリイカ	39	293	8	
		ヒラソウダ	16	202	13	
建網		カワハギ	9	332	37	
釣り	海部沿岸	タチウオ	40	2,588	65	小主体
		カツオ	2	1,171	586	特大主体
		アオリイカ	49	442	9	
釣り	紀伊水道	サワラ	21	569	27	大、中主体
		シラス	33	4,125	125	
パッチ網		シラス	33	4,125	125	

週間予報:

黒潮は室戸岬沖、潮岬沖ともにやや離岸する見込み。

地先水温は、鳴門地先が「やや高め」の21～22℃台、日和佐地先が「やや高め」の23℃台で推移する見込み。

他県情報:

和歌山県の釣りでメジロが 1.0トン(1日1隻あたり6kg)、スルメイカが 3.0トン(同 19kg)水揚げされた。パッチ網でシラスが 2.7トン(同 52kg)水揚げされた。

高知県芸東地域の大型定置網で、マアジが 9.2トン、ウルメイワシが 4.0トン、マルソウダが 1.2トン、カマスが 1.9トン水揚げされた。

*水温偏差の目安

平年並み:±0.49以下、やや高め(やや低め):±0.50～1.49、高め(低め):±1.50～2.49、かなり高め(かなり低め):±2.50以上